



## 白楊樹礼賛

茅 盾

(訳 横田勤)

白楊樹は実は平凡でない。私は白楊樹を賛美する。

車が果てしない高原の上を疾走しているとき、あなたの視野に飛び込んで来るもの、それは黄と緑が入り混じった大きなフェルトの絨毯である。黄色のそれは土で、未開墾の処女地であり、数十万年前に偉大な自然の力により堆積してできた、黄土高原の外殻である。

緑は、人が働いて自然の力に勝利した成果、麦畑である。暖かい風が吹き、緑の波が次々に翻る。この時、あなたは心の底から昔の人が“麦浪”という二文字を作ったことに敬服するだろう。もしそれが、その時の感動から偶然に得られた発想でなかったとしたら、まさに言葉に磨きをかけて得られた精華と言える。

黄と緑は、際限なく果てしない砥石の如き平面を支配しており、この時、もし、あなたと肩を並べているような遠くに見える連峰が、あなたの注意を喚起しなければ(それらの山の峰はあなたの肉眼で判断しても、あなたの足の下にあることが分かる)、あなたは、車が高原の上を走っているの

を忘れることだろう。この時、あなたに湧き起こる感想は、たとえば「雄壮」あるいは「偉大」というような形容詞かもしれない。しかしながら、同時にあなたの目は少し倦怠を感じて、目の前にある「雄壮」あるいは「偉大」に対して目を閉じるかもしれない。

そしてもう一種の味わいがあなたの心の中に、知らない内に出てくる——「単調！」なるほど、単調も少しはあるだろう。

けれども、もしあなたがふと目を上げたとき、前方はるかに一列の樹木が、いや二、三本、一本でもいい、まるで直立不動の歩哨兵のようにまっすぐに立っている樹木が見えたら、あなたの疲れて眠くなっていた気分はどうなるだろうか？

私はその時、思わず驚きの叫び声を上げたのだ！

それが白楊樹である。西北地方にごく普通に見られる一種の樹木であるが、実は平凡な樹木ではない。

それは努めて高い所を目指す、まっすぐな幹、まっすぐな枝を持つ樹木である。その幹はと言えば、通常は一丈〔3.3m〕ほどの高さで、まるで人工的に手が加えられているように、一丈より下には横枝がまったく存在しない。

そのすべての枝はと言えば、一律に上へ向かい、しかもぴったりと密集していて、これも人工的に手が加えられているようである。束を成していて、斜めに伸び出て行くものは全く存在しない。その広くて大きい葉も一枚一枚上へ向かい、斜めに生えるものはなく、下に垂れるものがないのは言うまでもない。その木の皮はつるつるしていて銀色で丸みを帯びており、わずかにうす青色が浮き出ている。

これは、北方地方の風雪の抑圧の下で、屈強にまっすぐに立ち続けている樹木なのだ！ たとえその太さが茶碗くらいのものであっても、それは上へ向かって伸びようと努力し、高さは丈を越え二丈、そして空高くそびえ、どんな困難にも屈せず、西北の風に対抗している。

これが白楊樹であり、西北地方に見られる極く普通の樹木であるが、決して平凡な樹木ではない。

それはしなやかに舞うような姿ではなく、くねくねと曲がった枝ではなく、あなたはそれを綺麗ではないと言うかもしれない——もし、美というのがもっぱら「しなやかに舞うような姿」あるいは「形よく整えられた姿」のようなものを指すのであれば、白楊樹を樹木の中の美女ということではできないだろう。ただし、彼は体格が立派で、正直で、素朴で飾り気がなく、厳粛で、その上、温和でもある。頑強で屈服せずにまっすぐそびえることは言うまでもなく、それは樹木の中の偉丈夫である。

あなたが積雪の解け始めている高原の上を走り、平坦な大地の上に、胸を張ってまっすぐ立っているこのような一株、あるいは列をなした白楊樹を眼にとめるとき、まさかあなたは「樹はただの樹だ」と思うことはあるまい。その素朴さ、厳粛さ、堅固で屈服しない強さが、少なくとも北方地方の農民を象徴している、ということに思い至らないことはあるまい。

まさかあなたは、敵の後方の広大な土地の至る所に、この白楊樹のように堅強不屈で傲然と胸を張って直立し、彼らの故郷を護っている歩哨兵の姿を、まったく連想しないようなことはあるまい。

さらにすすんで、あなたはこのように枝葉がぴったりと寄り添って努めて上へ伸びようとする白楊樹が、さながら、今日、華北平原で縦横に激しく動き、血をもって新中国の歴史を書き出しているあの精神と意志を象徴しているようだということに、思い至らないであろうか。

白楊樹は平凡な樹ではなく、それは西北地方に極めて普遍的に見られるもので、重視されておらず、北方の農民と似ている。

それは極めて強い生命力があり、痛めつけられないし抑え付けられても倒れない。それも北方の農民と似ている。

私は白楊樹を賛美する。なぜならばそれは北方農民の象徴となっているばかりでなく、とりわけ、今日、私たちの民族解放闘争の中で欠かすこと

のできない、素朴で強靱で、努めて上へ伸びようとする精神の象徴となっているからである。

民衆を見下げ、民衆を蔑視する頑固で保守的な人間は、貴族化した楠木（それも、まっすぐにそびえ、高くて美しいものではあるが）を賛美し、よく見かける極めて容易に成長する白楊樹を蔑視する。しかし、私は声高々に白楊樹を賛美する。

茅盾（1896-1981）：浙江省出身。小説家、批評家。1927年夏の国共分裂後日本に亡命。30年4月まで日本に滞在していた。混乱期にも執筆を続け、1949年から65年まで政府の文化部部長という要職を務めるなど、常に社会との関わりの中で作家活動を続けた。彼の死後（1982年）には茅盾文学賞が設立された。



（中国語原文） **白杨礼赞** 茅盾

白杨树实在是不平凡的，我赞美白杨树！

当汽车在望不到边际的高原上奔驰，扑入你的视野的，是黄绿错综的一条大毡子；黄的，那是土，未开垦的处女土，几十万年前由伟大的自然力所堆积成功的黄土高原的外壳。

绿的呢，是人类劳力战胜自然的成果，是麦田，和风吹送，翻起了一轮一轮的绿波——，这时你会真心佩服昔人所造的两个字“麦浪”，若不是妙手偶得，便确是经过锤炼的语言的精华。

黄与绿主宰着，无边无垠，坦荡如砥，这时如果不是宛若并肩的远山的连峰提醒了你，（这些山峰凭你的肉眼来判断，就知道在你脚底下的，）你会忘记了汽车是在高原上行驶，这时你涌起来的感想也许是“雄壮”，也许是“伟大”，诸如此类的形容词，然而同时你的眼睛也许觉得有点倦怠，你对当前的“雄壮”或“伟大”闭了眼。

而另一种味儿在你的心头潜滋暗长了——“单调”！可不是，单调，有一点儿吧。

然而刹那间，要是你猛抬眼看见了前面远远地有一排，——不，或者甚至只是三五株，一株，傲然地耸立，像哨兵似的树木的话，那你的恹恹欲睡的情绪又将如何？

我那时是惊奇地叫了一声的！

那就是白杨树，西北极普通的一种树，然而实在不是平凡的一种树！

那是力争上游的一种树，笔直的干，笔直的枝。

它的干呢，通常是丈把高，像是加以人工似的，一丈以内，绝无旁枝。

它所有的 亚枝呢，一律向上，而且紧紧靠拢，也像是加以人工似的。

成为一束，绝无横斜逸出。

它的宽大的叶子也是片片向上，几乎没有斜生的，更不用说倒垂了。

它的皮，光滑而有银色的晕圈，微微泛出淡青色。

这是虽在北方的风雪的压迫下却保持着倔强挺立的一种树！那怕只有碗来粗细罢，它却努力向上发展，高到丈许，二丈，参天耸立，不折不挠，对抗着西北风。

这就是白杨树，西北极普通的一种树，然而绝不是平凡的树！

它没有婆娑的姿态，没有屈曲盘旋的虬枝，也许你要说它不美丽，——如果美是专指“婆娑”或“横斜逸出”之类而言，那么白杨树算不得树中的好女子，但是他却是伟岸，正直，朴质，严肃，也不缺乏温和，更不用提它的坚强不屈与挺拔，它是树中的伟丈夫！

当你在积雪初融的高原上走过，看见平坦的大地上傲然挺立这么一株或一排白杨树，难道你就只觉得树只是树，难道不就不想到它的朴质，严肃，坚强不屈，至少也象征了北方的农民。

难道你竟一点儿也不联想到，在敌后的广大土地上，到处有坚强

不屈，就像这白杨树一样傲然挺立的守卫他们家乡的哨兵！

难道你又不更远一点想到这样枝枝叶叶靠紧团结，力求上进的白杨树，宛然象征了今天在华北平原纵横激荡用血写出新中国历史的那种精神和意志。

白杨不是平凡的树，它是西北极普遍，不被人重视，就跟北方农民相似。

它有极强的生命力，磨折不了，压迫不到，也跟北方的农民相似。

我赞美白杨树，就因为它不但象征了北方的农民，尤其象征了今天我们民族解放斗争中所不可缺的朴质，坚强，力求上进的精神。

让那些看不起民众，贱视民众，顽固的倒退的人们去赞美那贵族化的楠木（那也是直挺秀颀的），去鄙视这极常见，极易生长的白杨罢，但是我要高声赞美白杨树！

